科目：「江戸時代にタイムスリップ」

テーマ：校外学習

訪問先：四天王寺

実施日：令和 6 年 1 月 17 日(水)

10 時に、地下鉄谷町線四天王寺前夕陽丘ケ駅で、ボランティアの方と待ち合わせし、12 時までたっぷりと「四天王寺」創建の背景とお寺の伽藍配置・歴史について教えていただきました。

四天王寺は、33 万坪(甲子園球場 3 個分)の広い境内を持ち、聖徳太子が 593 年(推古天皇元年)に建立した官寺です。

本尊は金堂にある救世観音です。救世観音菩薩像は、太子の化身であり、それを囲むように四天王像が配置されており、それが「四天王寺」と呼ばれる所以です。

創建以来 1400 年の間、幾度もの災害や戦災に見舞われ現在の伽藍は昭和 20 年から 18 年かけて再建されました。

初めに案内された石鳥居ではお彼岸の中日に「日想観」の法要が執り行われます。石鳥居に沈む夕日がきれいに見えるそうです。「夕陽ケ丘」という地名は、鎌倉時代の歌人藤原家隆が西の海に沈む夕陽に感動して歌を詠んだことに由来しています。

この辺りは「上町台地」にあり、すぐ西は海でした。今も西に向かって七つの坂(天王寺七坂)があります。

遣隋使は帰路、瀬戸内海から住吉神社→四天王寺→法隆寺と訪れたそうです。

私たちは石鳥居、極楽門、五重塔、金堂、講堂、石舞台、亀井堂、仁王門を見学しました。

亀井堂では、供養を執り行う様子を見ることができました。

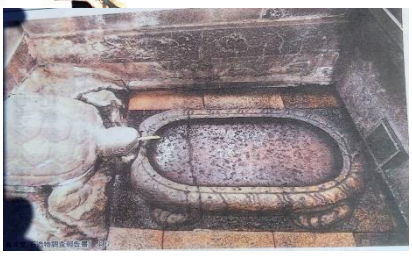
今回は、金堂における舎利出し(舎利を頭上に戴く)は出来ませんでしたが、毎日 11 時に執り行われますので、機会があれば行きたいと思います。

この度は、歴史あるお寺に連れて行って頂きありがとうございました。

石鳥居

五重塔と
あべのハルカス

仁王門



亀井堂
亀形石